

(仮称) 都心部まちづくりプランについて

【目次】

- 1 ビジョン実現に向けて
- 2 計画の概要（目的，位置づけ等）
- 3 街なかの空間を構成する視点と望ましい状態
- 4 今後の進め方

令和4年6月1日（水） 宇都宮市

1 ビジョン実現に向けて

(1) 「都心部まちづくりビジョン」におけるまちづくりの理念

都心部まちづくりの方針

【全体方針】

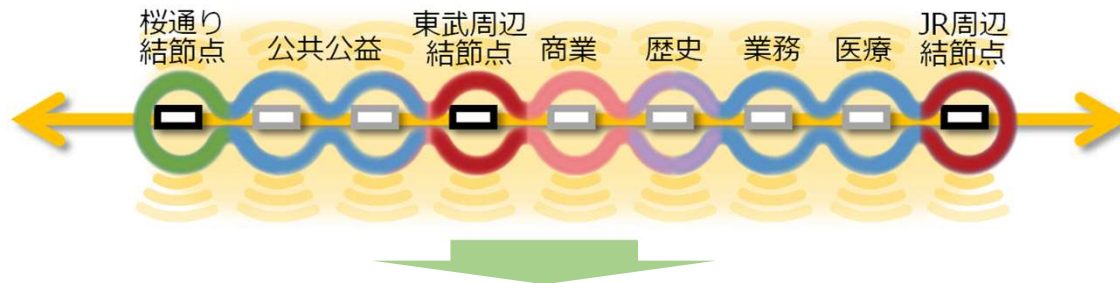
長い歴史や文化、自然など地域資源を活かした
『ストーリー性のあるまちづくり』

【3つの視点（方針）】

- ①ウォーカブルなまちづくり
- ②ICTなど先進技術の活用や脱炭素化を推進するまちづくり
- ③多様な主体が連携したにぎわいまちづくり

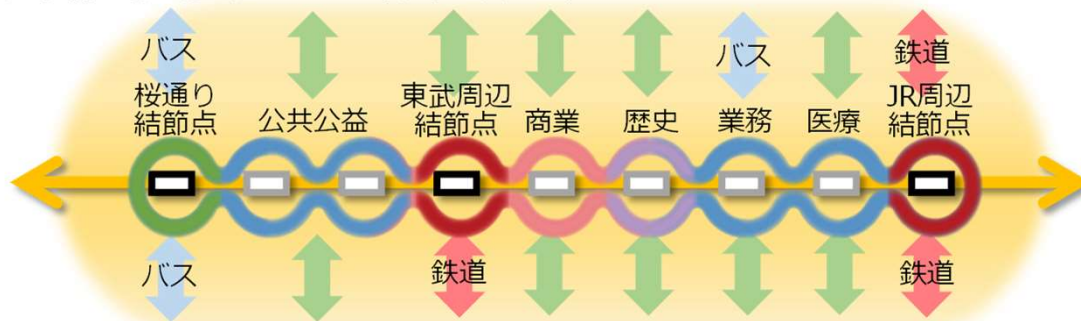
目指すまちづくりのイメージ

〔多様性のある一体的空間の形成〕



- ・沿線に訪れる人々の多様なニーズに応えるまちの機能を充実
- ・居心地が良く快適な歩行空間形成など、人の回遊やにぎわいを波及させ、都心部エリア全体の魅力と価値を向上

〔大通り沿線を軸とした都心部へのアクセス向上〕



- ・街なかの回遊性を高めるとともに、周辺地域からも充実した多様なまちの機能・魅力を楽しむ環境づくりを進めることで、都市全体の魅力を向上

市民が自動車、公共交通、自転車など、多様な交通や充実したまちの機能を利用し、誰も豊かで便利に暮らすことができる都心部を目指している

(2) ビジョン実現に向けて

ビジョンが描く市民の移動や生活を具現化していくには、
都心部エリアを有効に活用し、
人と多様な交通が共存し、円滑に移動しながら、
街なかのにぎわいづくりにつなげていくことを基本に、
まちづくりの土台となる

「街なかの空間形成（道路や沿道の土地、建物などの利用）」
を、以下のような機能などを備えたものに変えていく必要

- 歩行者や自動車、公共交通などの円滑な移動
- 歩く人の目線から感じられる道路など公共空間の居心地の良さ
- 市民や来街者の多様なニーズに応えるまちの機能
- 公共交通がより利用しやすくなる交通結節機能（駐車場や端末交通の導入など）
- 新たなまちづくりへの要請に対応した新技術の活用や脱炭素化の推進

2 計画の概要

(目的, 位置づけ, 骨子イメージ等)

（1）プランの目的

ビジョン具現化に向けた「街なかの空間形成」を推進する必要性

【プランの目的】

市民・事業者・行政が共に描いた都心部のビジョンの具現化に向け、人とあらゆる交通手段が共存し、移動しやすく、魅力あふれる都心部の形成を目指し、多様なまちの機能の充実や居心地が良さの向上などに資する「街なかの空間形成」を官民協働で推進するため策定するもの。

【都心部まちづくりビジョンの全体方針】
長い歴史や文化、自然など地域資源を活かした
『ストーリー性のあるまちづくり』



ビジョン具体化に向けた
まちづくりの土台となる
「街なかの空間形成」
を推進

（仮称）都心部まちづくりプラン

交通

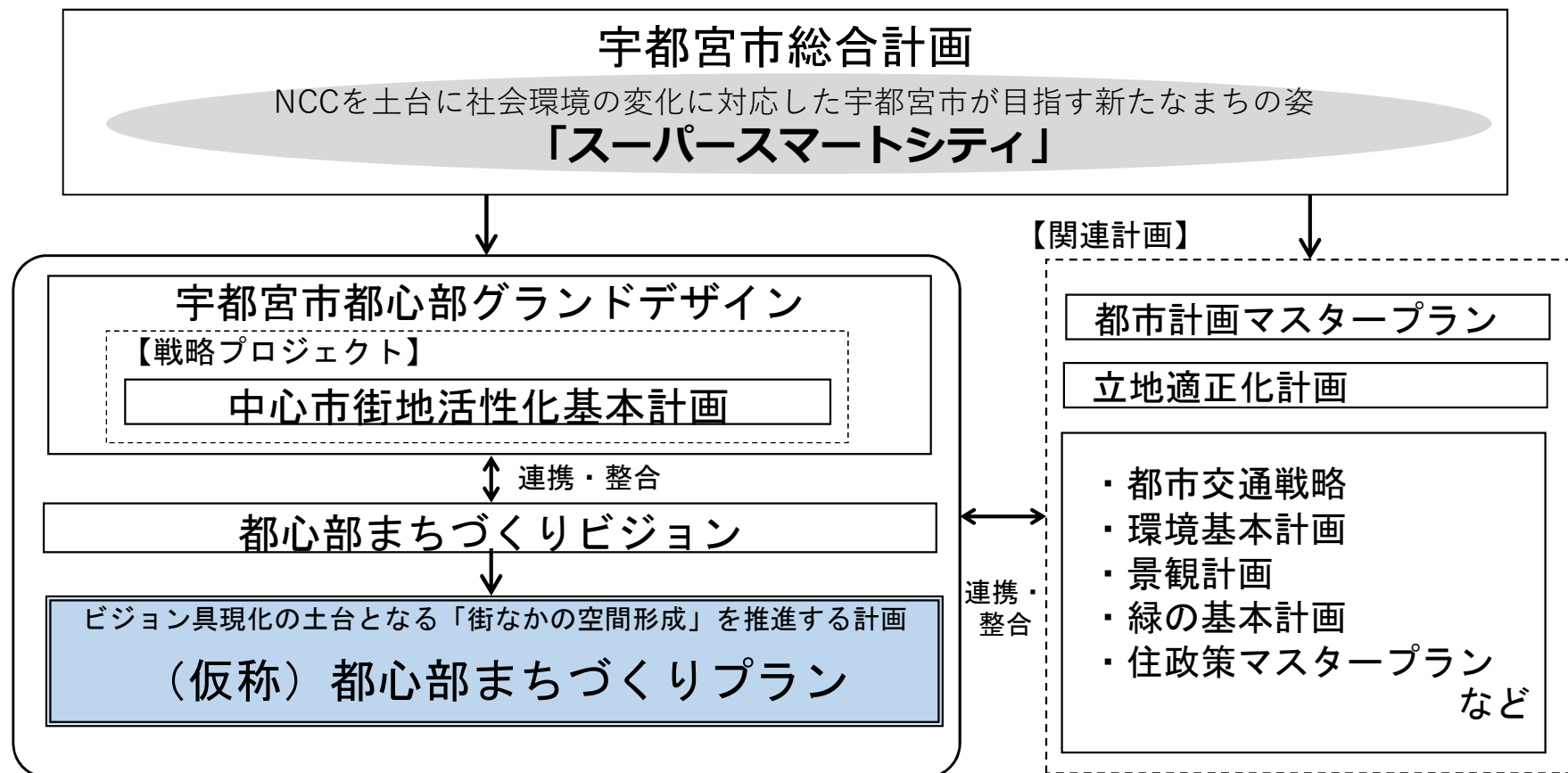
人とあらゆる
交通手段が共存し、
円滑に移動できる
空間形成に向けた
交通環境づくり

まちづくり

街なかの空間を多様
なまちの機能が充実
し、居心地が良い
空間に変えていく
官民協働まちづくり

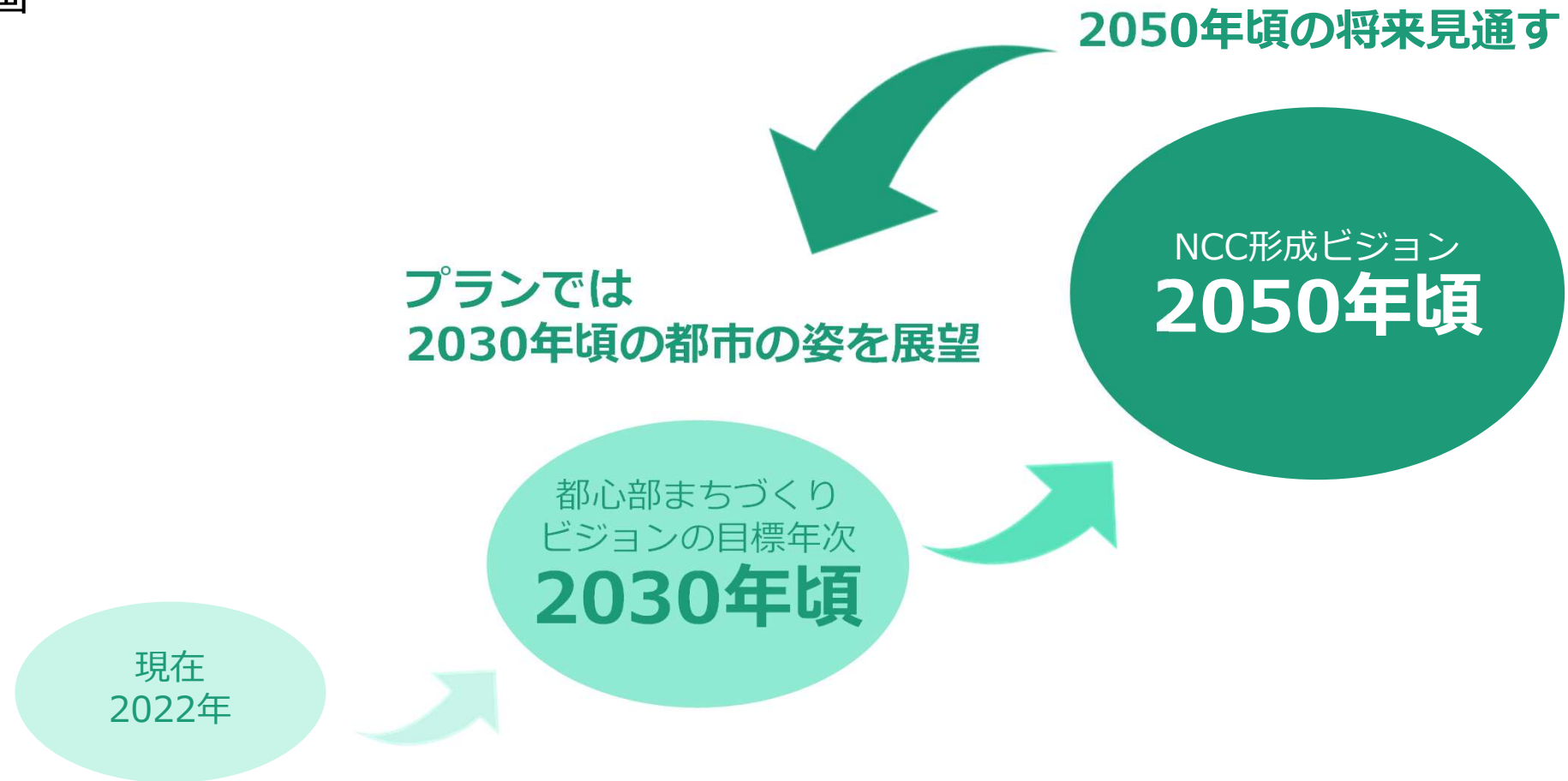
（２）計画の位置づけ

- ビジョン具現化に向けた「街なかの空間形成」の推進を図るため、道路のかしこい使い方や駐車場などの適正な配置，民間開発促進等の市街地整備などの指針となる計画
- 「都市計画マスタープラン」，「立地適正化計画」，「都市交通戦略」などと整合を図りながら，「スーパースマートシティ」の土台となるNCC形成をより一層推進し，スーパースマートシティが目指す3つの社会（「地域共生社会」「地域経済循環社会」「脱炭素社会」）の構築に貢献する計画



（3）プランの目標年次

- ビジョンが目指す概ね10年先（2030年頃）の都市の姿を展望するとともに、NCCの形成を目指す「NCC形成ビジョン」が見通す2050年を見据えた計画



図：プランの目標年次のイメージ

（4）計画の骨子イメージ

1）プラン策定の目的・位置づけ

2）街なかの空間における望ましい状態の整理

- 「街なかの空間」を構成する「まちづくりの視点」を設定し、視点ごとに将来の望ましい状態を設定

3）現状分析・課題整理

- 望ましい状態に対し、都心部エリアの現状を分析し、まちづくりの課題を整理

4）まちづくり施策の取組方針

- 「街なかの空間形成」における課題を踏まえ、まちづくり施策の取組方針を設定

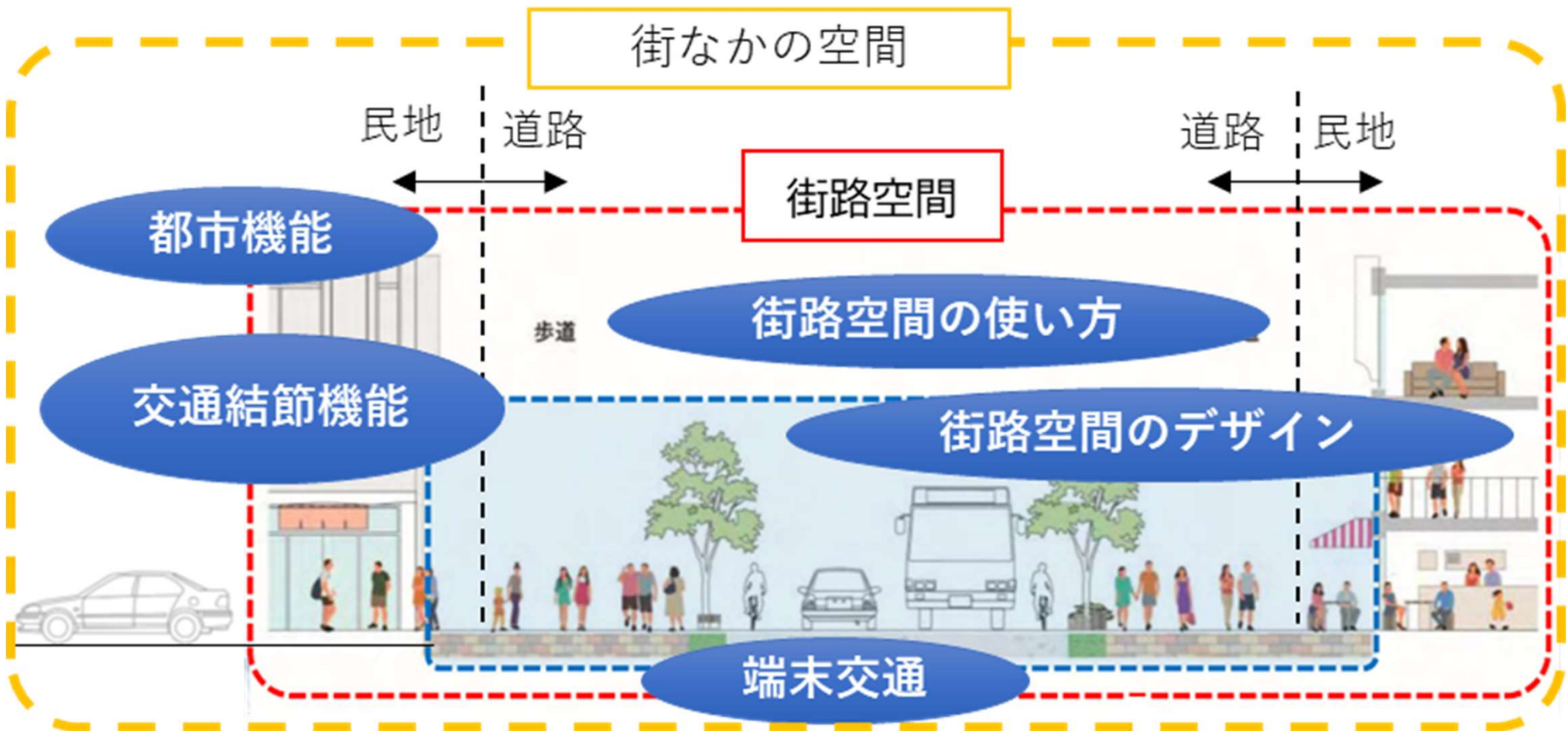
5）エリアの特性を踏まえたまちづくりの進め方（施策展開）

- 計画的に施策を展開するにあたり、ビジョンにおけるシンボル空間や交通結節点など、エリアの特性を踏まえながら、取組方針に基づく、多様な交通が共存しながら、街なかを人中心の魅力ある居心地が良い空間に転換していくための施策を位置付けるとともに、まちづくりの進め方を整理

3 街なかの空間を構成する視点と 望ましい状態

(1) 街なかの空間を構成するまちづくりの視点

- 道路と沿道の土地，建物を一体的に捉えた空間を基本（下図）に，「街なかの空間」を構成する機能から「まちづくりの視点」を設定



(1) 街なかの空間を構成するまちづくりの視点

■ 「まちづくりの視点」から想定される街なかの機能や設え

「街路空間」

使い方: 道路の場所や特性に応じた交通の移動,
人の滞在や回遊, イベント・アクティビティ など

デザイン: 広さ, 景観(沿道の外壁や路面, 軒等), 緑地, 附属物(ベンチ等)などの空間形成

「都市機能」

生活や都市活動に必要な 住居, 商業施設(スーパー, コンビニ, ドラッグストア, 百貨店等), 業務施設(オフィス等), 医療施設, 娯楽施設, 公共・公益施設 など

「交通結節機能」

公共交通や自動車等と街なかを結節する 路外駐車場(コインパーキング, 月極駐車場, 附置義務駐車場), 路上駐車(荷さばき等), 駐輪場 など

「端末交通」

街なかの移動利便性や回遊性を高める 自転車や電動キックボード等の新たなモビリティ, 端末交通の走行環境(路肩や歩道等) など



(2) まちづくりの視点ごとの将来の望ましい状態

- 街なかを構成するまちづくりの視点ごとに、将来の街なかの空間の在り方を以下の通り整理

「街路空間」

- 都心部エリアにおいて、**徒歩、自転車、自動車、公共交通等、多様な交通が移動に使う空間と人が歩いて楽しむ空間とにかしこく使い分け**、限られた街路空間を、**安全で居心地が良く、歩きたくなる空間**にしていく。

「都市機能」

- 都心部エリアは、住む人・働く人・学ぶ人など、多様な人々が過ごす空間であることから、**公共交通の基軸となるLRTが導入される大通りを中心に、人々のニーズに応える都市機能を充実させていく**ことで、街なかを使いやすく、安心して便利に、**更に経済活動が活性化した空間**にしていく。

「交通結節機能」

- 路外駐車場の量や配置について、多様な交通が移動に使う空間と人が歩いて楽しむ空間など街路空間の**使い方を踏まえながら、適切に配置することで、限りある道路や民地(土地・建物)などを有効に活用**していく。
- モノの移動も活発な都心部エリアでは、**経済活動を支える路上での荷さばきが効率的に行える空間や環境を整えていく**。
- シェアサイクルや新たな交通手段とLRTを基軸とした公共交通との結節機能を充実させること**により、公共交通を中心とした人の移動を支えていく。

「端末交通」

- 自転車に加え、**シェアサイクルや電動キックボードなど、将来の新たなモビリティの導入や端末交通が安全で快適に利用できる環境を街なかの空間に整えていく**。

街路空間 ①街路空間の使い方（移動や滞在）

【空間の在り方】

都心部エリアにおいて、徒歩、自転車、自動車、公共交通等、多様な交通が移動に使う空間と人が歩いて楽しむ空間とにかしこく使い分け、限られた街路空間を安全で居心地が良く、歩きたくなる空間にしていこう。

望ましい状態のイメージ

- 生活に身近な道路やにぎわいの中心となる道路に、通過目的の自動車が入らない
- 幹線道路などの「多様な交通が移動に使う空間」と商店街などの「人が歩いて楽しむ空間」など、道路が持つ特性や役割に応じて、街なかの空間を有効に活用している

幹線道路などを中心に街なかの通過目的の自動車を円滑に処理するイメージ



出典:「ストリートデザインガイドライン(2.0)」(国土交通省)

道路が持つ特性や役割のイメージ

「多様な交通が移動に使う空間」

「人が歩いて楽しむ空間」



公共交通・乗用車・貨物車・自転車・徒歩等で目的地までの移動が行われる



立ち止まる・座る・食べる・遊ぶ・
買い物をする・パフォーマンスを行う等の活動が行われる

街路空間 ②街路空間のデザイン（居心地が良く、歩きたくなる空間）

【空間の在り方】

都心部エリアにおいて、徒歩、自転車、自動車、公共交通等、多様な交通が移動に使う空間と人が歩いて楽しむ空間とにかしこく使い分け、限られた街路空間を安全で居心地が良く、歩きたくなる空間にしてい

望ましい状態のイメージ

- 歩く人と人の距離に十分なゆとりがあり、歩きやすい
- 乗換えや散策の途中で、飲食や休憩などもできるベンチなどがある
- 建物の低層階のお店が道路に面してオープンになっている、人が街なかを歩きながら、買い物や飲食などを楽しめる
- 身近に緑が感じられる空間が形成されている
- 建物の作りに、大谷石を生かした「宇都宮らしさ」やエリアの成り立ちや特性が感じられる
- 民地の軒先の位置や見た目など景観に統一がある



東京都 丸の内仲通り(出典:国土交通省資料)



③都市機能（住む、働く、学ぶ、遊ぶ）

【空間の在り方】

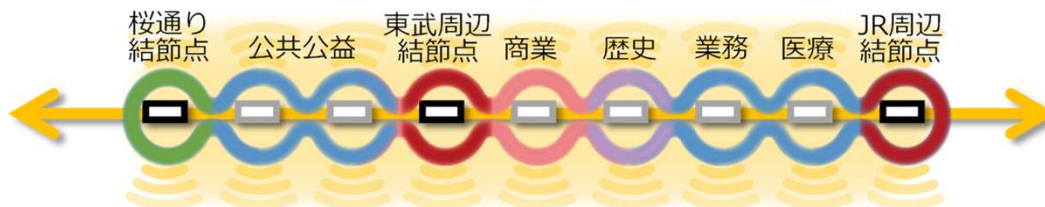
都心部エリアは、住む人・働く人・学ぶ人など、多様な人々が過ごす空間であることから、公共交通の基軸となるLRTが導入される大通りを中心に、人々のニーズに応える都市機能を充実させていくことで、使いやすく、安心して便利に、更に経済活動が活性化した空間にしていく。

望ましい状態のイメージ

- 住む人、働く人、学ぶ人などの日常生活のニーズに応える買い物や食事、医療などの施設が充実している
- 仕事の帰りや休日などに、自分の趣味や娯楽、家族との余暇が過ごせる施設が充実している
- 交通結節点周辺などに子育て支援施設などが充実している
- テレワークやリモート会議などで誰でも使える共同オフィスやワーキングスペースが充実している
- 建物の更新が進み、災害などに強い安心して活動できる空間が形成されている
- 街なかの施設や住居が、高齢者や障がいのある人でも利用しやすくなっている（バリアフリー）
- 観光や街なかのお得なサービスなどの情報を手軽に取得でき、移動や生活の利便性向上に繋がるデジタル技術が普及している
- 都市の脱炭素化の推進に貢献する省エネ、創エネ、蓄エネ設備を備えた建物が増えている
- 居心地が良い空間の形成や都市機能の充実によって、都心部に住む人が増え、経済が活性化している
- 低未利用地（空き地や空き家）を活用され、まちの機能やサービスが充実している

大通りを中心とした多様な都市機能の充実イメージ
（ビジョンより）

〔多様性のある一体的空間の形成〕



多様な働き方や新しいまちづくりの要請に対応した施設や機能など



共同オフィスやワーキングスペース(宇都宮市)
（出典:コワーキングスペースaret(アレット)HP



デジタルサイネージ
（宇都宮市）

④交通結節機能（路外駐車場・路上駐車（荷さばき等），駐輪場など）

【空間の在り方】

- 路外駐車場の量や配置について，多様な交通が移動に使う空間と人が歩いて楽しむ空間など街路空間の使い方を踏まえながら，適切に配置することで，限りある道路や民地（土地・建物）などを有効に活用していく。
- モノの移動も活発な都心部エリアでは，経済活動を支える路上での荷さばきが効率的に行える空間や環境を整えていく。
- シェアサイクルや新たな交通手段とLRTを基軸とした公共交通との結節機能を充実させることにより，公共交通を中心とした人の移動を支えていく。

望ましい状態のイメージ

- ・街路空間の使い方に合わせて駐車場が配置され，駐車場への入庫待ちによる交通影響や駐車場に入る自動車と歩行者との錯綜がない
- ・物流活動が効率的に行われ，交通への影響や人との錯綜がない
- ・公共交通から円滑に末端交通に乗り換えられ，便利で快適に目的地まで移動できている

駐車場の現状と望ましい状態のイメージ

入庫待ち（渋滞）の発生

歩行者との錯綜の発生

まちなみの連続性の断裂
土地利用の非効率化



路上駐車（荷さばき等）の現状と望ましい状態のイメージ

【現状】 交通への影響

人との錯綜（歩道をまたいだ駐車）



【望ましい状態】



⑤ 端末交通

【空間の在り方】

○ 自転車に加え、シェアサイクルや電動キックボードなど、将来の新たなモビリティの導入や端末交通が安全で快適に利用できる環境を街なかの空間に整えていく。



望ましい状態のイメージ

- ・ 八幡山公園や城址公園など、都心部エリアの目的施設まで、公共交通から快適に移動できる端末交通に乗り換えて回遊できる（シェアサイクルやシェア電動キックボードなど）
- ・ 街なかで端末交通の走行環境が整い、都心部周辺からも、安全・安心で快適に大通り沿線にアクセスできる

端末交通イメージ（ビジョンより）



シェアサイクル



シェア電動キックボード

端末交通の走行環境イメージ



自転車専用走行空間(宇都宮市)
(出典:「宇都宮市自転車まち推進後期計画」)

(2) まちづくりの視点ごとの将来の望ましい状態

| まちづくりの視点 | | 望ましい状態のイメージ |
|--------------------------------------|---------------------------------|---|
| 街路空間 | ①街路空間の使い方 (移動や滞在) | <ul style="list-style-type: none"> 生活に身近な道路やにぎわいの中心となる道路に、通過目的の自動車が入らない 幹線道路などの「多様な交通が移動に使う空間」と商店街などの「人が歩いて楽しむ空間」など、道路が持つ特性や役割に応じて、街なかの空間を有効に活用している |
| | ②街路空間のデザイン (居心地が良く、歩きたくなる空間) | <ul style="list-style-type: none"> 歩く人と人の距離に十分なゆとりがあり、歩きやすい 乗換えや散策の途中で、飲食や休憩などでもできるベンチなどがある 建物の低層階のお店が、道路に面してオープンになっていて、人が街なかを歩きながら、買い物や飲食などを楽しめる 身近に緑が感じられる空間が形成されている 建物の作りに、地域資源を生かした「宇都宮らしさ」やエリアの成り立ちや特性が感じられる 民地の軒先の位置や見た目などに統一がある |
| ③都市機能 (住む、働く、学ぶ、遊ぶ) | | <ul style="list-style-type: none"> 住む人、働く人、学ぶ人などの日常生活のニーズに応える買い物や食事、医療などの施設が充実している 仕事の帰りや休日などに、自分の趣味や娯楽、家族との余暇が過ごせる施設が充実している テレワークやリモート会議などで誰でも使える共同オフィスやワーキングスペースが充実している 交通結節点周辺などに子育て支援施設などが充実している 建物の更新が進み、災害などに強く、安心して活動できる空間が形成されている 街なかの施設や住居が、高齢者や障がいのある人でも利用しやすくなっている(バリアフリー) 観光や街なかのお得なサービスなどの情報を手軽に取得でき、移動や生活の利便性向上に繋がるデジタル技術が普及している 都市の脱炭素化の推進に貢献する省エネ、創エネ、蓄エネ設備を備えた建物が増えている 居心地が良い空間の形成や都市機能の充実によって、都心部に住む人が増え、経済が活性化している 低未利用地(空き地や空き家)を活用され、まちの機能やサービスが充実している |
| ④交通結節機能 (路外駐車場・路上駐車(荷さばき等)、駐輪場など) | | <ul style="list-style-type: none"> 街路空間の使い方に合わせて駐車場が配置され、駐車場への入庫待ちによる交通影響や駐車場に入る自動車と歩行者との錯綜がない 物流活動が効率的に行われているとともに、交通への影響や人との錯綜がない 公共交通から円滑に端末交通に乗り換えられ、便利で快適に目的地まで移動できている |
| ⑤端末交通 | | <ul style="list-style-type: none"> 八幡山公園や城址公園など、都心部エリアの目的施設まで、公共交通から快適に移動できる端末交通に乗り換えて回遊できる(シェアサイクルや電動キックボードなど) 街なかで端末交通の走行環境が整い、都心部周辺からも、安全・安心で快適に大通り沿線にアクセスできる |

空間の在り方や望ましい状態などを中心に、委員の皆様のご意見を頂戴したい

4 今後の進め方

「(仮称) 都心部まちづくりプラン」の検討ステップイメージ

計画の目的

官民が共に描いたビジョンの具現化に向け、人とあらゆる交通手段が共存し、移動しやすく、魅力あふれる都心部の形成を目指し、多様なまちの機能の充実や居心地が良さの向上などに資する「街なかの空間形成(道路や沿道の土地、建物などの利用)」を官民協働で推進するため策定するもの。

